

## 熱川温泉病院 高尾 信彦(薬剤科長)

功 績	薬剤師1名の状態が続いた約半年間を薬剤科長としての責任感で業務に取り組み、病院運営に支障がないよう乗り切った功績。
推 薦 者	上原 直行 (事務部長)
推 薦 理 由	高尾科長は薬剤師1名となった半年間を、自ら時間外・休日出勤を厭わず業務に邁進し、人員不足による業務の遅滞や重大なインシデントが発生することなく乗り切りました。体力的に大変だったと思いますが、長年のキャリアで培った知識・経験を用いつつ、薬剤科長としての責任感で頑張り通した姿は、私たち職員の模範となるものです。是非理事長賞に推薦申し上げます。

### 内 容

---

薬剤科長の高尾は入職4年目ですが、薬剤師として40年以上のキャリアがあるベテランで、入職後からコメディカル部の中心的存在として医師・看護師や薬剤科助手へ適切な助言を行い、患者さんや調剤薬局からの問合せには親切丁寧に応じつつ、いつも優しい笑顔で忙しいときでも職員を和ませる頼れる存在です。

昨年11月、薬剤師1名が家庭の事情で退職しました。人事課で募集に動きましたが、へき地でもあり中々適切な人材の採用に至りませんでした。当院の薬剤師は科長の高尾を含めた2名体制（医療法上の定数2名）でしたので、高尾の業務負担は自ずと大きくなっていました。

そこで彼は人員不足による業務の遅滞・インシデント発生を防ぐべく、毎日早朝に出勤。その日の全患者さんの処方箋を確認し、スタッフへ必要な指示を行いながら日中の業務を行い、定時後も明日の業務に必要な準備を遅い時間まで行っていました。また休日出勤も厭わず、救急当番日には救急患者に対応するべく出勤を続け、時間外勤務は月あたり35時間～50時間に及びました。

今年4月、ようやく新しい薬剤師の採用が決定し、5月から勤務を開始しました。少し疲れた表情の高尾にこの半年間を振り返ってもらいましたが、『薬剤師が患者さんの健康に貢献するのは当たり前だよ』『自分が頑張らないと病院が止まってしまうからね』と謙遜して答えてくれました。病院の診療を守り、人員不足による重大なインシデントが発生することなく乗り切った高尾の行動は、病院運営の一端を担う薬剤科長としての責任感に基づくもので、業務に専心する姿をみると感服するばかりです。